



日光集落支援員
活動レポート vol.05

「やってみたい」を形に

このコーナーは、集落支援員として日光地域の活性化に取り組む井中友子さんの活動を紹介합니다。



日光小学校跡地利用検討委員会の様子

日光地区では、旧日光小学校の跡地利用について検討を進めています。

先日、日光地区と同じような環境で「町づくり」に取り組み、起業されている地域おこし協力隊OBの方から、先進事例を伺い、アドバイスをいただきました。

どこの地域にも苦勞や課題がありますが、まずは「やってみたい！」と思う自分の得意分野で、できることから始めることが大切です。すると、

そこにいろいろな特技を持つ人が集まり、アイディアが生まれ、雇用が生まれ、町が元気になります。

今、日光には人が集まる場・交流の場が必要です。そのため、それぞれが特技を持ち寄り場として、日光小学校を使ってみようと思います。

さっそく、小物づくりが得意な方がおられるので、古布を持ち寄り、小物づくりからはじめたいと考えています。

ALT通信 VOL.59

このコーナーは、ALT(外国語指導助手)によるエッセイを、英語と日本語で紹介します。

This weekend I went to Takeda Castle in Hyogo Prefecture. I was very sick but forced myself to go. When I arrived in Wadayama, the day was cold and clear. I climbed up to Takeda Castle and from there saw an intersection of five valleys, sprawling with cypress trees and forests of pine. The air was so clear, I could see the river flowing far below.

Listening to the air around me, I felt a powerful connection to Japan and its beautiful culture. Takeda Castle spoke very strongly to me with its beautiful view.

The next day, I was even sicker and it was raining hard, but I decided to go back to Takeda Castle. Now it became a different world. The rain poured on and white mists like milk flooded into the five valleys. It was impossible to see the sky or trees around me.

I hiked up Ritsuunkyo, opposite Takeda Castle, shrouded in a white fog, and arrived at a viewpoint. There it was impossible to see anything but a white ocean that was the color of the moon. I hiked up higher and this time, waiting, the mist slowly rolled over and I could see the trees and walls of Takeda Castle, an island alone in the entire world. Powerfully moved, I waited and watched until a new wave of mist buried the castle. The rain beat on. It had lasted only a few moments, but it felt like the world and I had shared a mystery together.

Peter

今週末、兵庫県竹田城跡に行きました。体調が悪かったけど、頑張って行って来ました。

和田山に到着した日は寒く、空気がきれいでした。竹田城跡の上まで登ると、眼下に、互いに交わる5つの谷、杉や松の林が広がっていました。空気がとてもきれいだったので、下を流れる川も見ることができました。

周囲の空気に耳を澄ますと、日本と日本の文化とが強くつながっているのを感じました。竹田城跡は、そのとても美しい姿で私に強く語りかけてきました。

翌日、体調がさらに悪化したうえに、外は大雨でしたが、もう一度竹田城跡に行くことにしました。行ってみると、そこは別世界でした。雨が降り、ミルクのような白い霧が5つの谷を包み、周りの空や木々をすっぱり隠していました。

竹田城跡の向かいにある立雲峽に登り、霧に包まれていた場所に着きました。目の前は月の色をした白い海が広がっているだけで、それ以外には何も見えません。さらにもっと高い場所へ行き、しばらく待つと、霧がゆっくりと流れ去り、竹田城跡の木々や城壁が、世界にたったひとつだけ、ぽつんと存在する島のように現れました。さらに待つと、新しい霧の波が城跡を埋めつくしました。雨は依然強く降っていました。

ほんの数分しか続かない情景でしたが、それはまるで生きている世界そのもののように感じられ、竹田城跡と僕は何か不思議なものを共有したように感じました。

竹田城跡から
眼下に広がる雲海



晴れたときの
竹田城からの眺望

